



この上はいよいよ源頭のようになり、水温もぐっと下がって冷たくなり、沢はヤブの中でいくつにも枝分かれしながら水を集めている。

12:15水流を離れてやぶこぎに入り、旭岳の東斜面のなだらかなブッシュ帯を1時間20分かかって、13:35登山道に出る。
(記)

[タイム] 一里滝沢出合(9:00)→二俣(9:45, 10:00)→一里滝大瀧(10:15)→源頭(12:15)→登山道(13:35)

④ / 沢
一里滝沢左俣 1983年7月22日
L

天気曇り時々小雨。甲子温泉の手前から本谷ぞいに林道を歩き、一里滝沢出合の少し上で本谷に降り、少し下って出合に着く。

出合すぐF1 7mがかかり、右側から登る。するとすぐに小滝2つがあるが、何なくパス。続くF2 4m 2段滝は、下段を右側より直登する。上段は何なく越える。あとは平凡となった。

30分程歩いて右手から小沢が合流した所で小休止。この小沢の上流には60m程の3段の滝がもやの中に見えていた。近くまで見物に行く。

再び歩きはじめるとまもなく二俣。2条滝となって合流している。右側を直登して左俣に入る。するとすぐにまた二俣。右俣がナメとなっていることを確認してF4を直登して左に入る。その先にも二俣があり、ここも左に入る。

右岸がガレ場となっている所を過ぎると滝が連続して出てきた。まずF5 4mは軽く越える。次のF6は、初め直登を試みたが、クラックがもろく、はがれてくるので、左岸を捲く。続くF7は倒木ぞいにシャワーで左側を直登する。F8は、左側も捲懸想だったが、右側を捲く。F9は何なく越えた。ナメがしばらく続いてから、F10、F11が連続して現われる。どちらも軽くパス。

このあたりまでくると、沢もいよいよ終わりだという感じになる。小滝2つをパスすると、左右から小沢がいくつも合流するようになり、やがて水も少なくなって

くる。水がなくなったところで藪に突っ込んだと思ったら、10m程のやぶごぎで登山道に出た。 (記・ 4)

[タイム] 甲子温泉(6:35)→一里滝出合(7:00)→右俣分岐(8:00)→遶行終了(10:10)→坊主沼避難小屋(10:45)

無名沢(下降)

1983年7月24日

L

天狗滝沢から尾根を越えて尾根1本東の無名沢の下降を開始する。最初の伏流が小さなルンゼとなり、沢となる。

この沢はちよっと下った所に2m、3m、2mと小滝が続き、いずれもすべらないように注意して下る。あとは平凡な沢歩きで、約30分後に本谷に出る。 (記

[タイム] 下降開始(10:30)→阿武隈川本流(11:05)



天狗滝沢

1983年7月24日

L

林道終点から沢に入る。ここから雄滝までは河原歩きで、滝はない。落差10mの雄滝の右岸を尾根まで約30分、やぶごぎをする。急登なので、結構のアルバイトだ。尾根を反対側を下ると天狗滝沢である。

この沢は、明るい本沢とは対照的で、薄暗く、陰気な感じの泥沢だ。眼前には約35mの三段になった天狗滝がある。岩肌は黒

っぽく、コケが生えており、すべりやすそうだ。

左岸をかなり高捲きしてから、天狗滝の落口を確かめようと覗いてみると、天狗滝に続いて25mもの滝があり、驚いた。結局、2つの滝を一気に捲くことになる。

さらに上流に違むと、3mと2mの小滝が2つあるだけで、徐々に水量も減り、水が冷たく感じられる。この先は、勾配のない小川のように、兩岸の木立がおおいが